

「しあわせのローカル経済」へ — 今年を振り返って —

まほろば主人
宮下 周平

今、嵐の前の静まり返った平常でしょうか。妙に不穏の足音が、ヒタヒタと迫り来るような今日この日々です。

あのエルサレムをイスラエルの首都とした蹟つまずきが、世界を激烈なる戦場の坩堝るつぼ おとしに陥れる引き金になるやも知れず、片や、北朝鮮問題は、対岸の火事どころか、此岸の大火で廃墟と化す慄おのきも聞こえます。ともあれ、これから、受難の世紀を迎えるか否か、誰も予測は付きません。この激しい時の奔流ほんりゅうに抗することが、果たして叶うでしょうか。

厚別店開業 30 周年を迎える

そんな中、8月に厚別店開業の記念すべき30周年祭がありました。当時、最も苦境に立たされていた厚別店の存続への決断に、天のご加護厚きを思わずにはられません。本店も開店35周年を明後年に控えています。これも、偏ひとえに



多くのお客様に支えられて来たからこそ今日が迎えられたこと、ただただ感謝するばかりです。さらに地域から愛され、無くてはならない店となれますようスタッフ一同精進を重ねて参りたいと思います。よろしくお導き下さいますようお願い申し上げます。

2017 年末のご挨拶



「続倭詩」刊行

昨年末発刊された「倭詩」の続編。難産の末、生まれた第二冊目。多くの推薦のお声を頂きながら、文体が古く、中々親しみ難い為か

販売が進みませんが、これからも、まほろばの「情緒」哲学を理解して戴くための縁よすがとなれば幸いです。

「しあわせのローカル経済」

11月、「しあわせの経済」2017 in Japan が東京で開催され、参加しました。これは、単なる環境運動の一環というより、まほろばにとっても重要な意味をもったフォーラムでした。

混迷を深める人類世界、その行き場のない根本原因が、貨幣



制度であり、それもグローバル経済によって翻弄ほんろうされてゆく人々や国々が犠牲者です。そこに、地方主義、地域再生といった本来の人間のあるべき姿を問い、そこに立ち返るムーブメント。まほろばが今日までやって来たことは、その序奏でもありました。日本の一地域である札幌で、自然食の仕事が続けてきたこと、そしてこれからも地方と繋がりながら、北の大地で志ある人々と次の時代を切り拓きたい。都市に住んでも、田舎に住んでも、同じ志で足元を見つめ、そして遠くに思いを馳せながら、進みたいと決意しました。

今年一年、目に見えて大きな変化が無かったようですが、実は深い底辺で一番大きな変容があったような気がします。何か大きな自覚と目標が開かれ、希望や夢が生まれました。

これを皆さんと共有して、来年からまた一歩でも前進して参りたいと思います。

今年も、皆さまには大変お世話になり、ご愛顧賜りましたこと、まほろば従業員一同心より感謝申し上げます。つつがなくも御身安らかに、来たる年もまた佳き年でありますことを心よりお祈り申し上げます。